

2018（平成30）年度総事業計画案（H30年4月1日～H31年3月31日）

一般社団法人 沖縄県がん患者会連合会

月	日	事業予定
2018年 4月	7日（土）	・役員会/H29年度／県委託、県社協助成、他事業報告書・収支決算報告書確認 ・H30年度／事業計画書確認・予算案確認 ・平成30年度事業申請依頼・各関連機関へ向け資料発送処理・社協助成金申請（予算内訳・事業報告・事業予定）
5月	12日（土） 27日（土）	・役員会、総会準備/連合会総会（※開催不可の際は総会冊子の送付） （県離島フォーラム・県社協、本島内固定、移動サロン、離島移動サロン、準備確認） ・県社協助成事業/固定ケアリングサロン（絵画セラピー：安里香代子氏）
6月	2日（土） 18日（月） 29日（金） 30日（土）	・役員会（サロン、準備確認） ・琉大教職員大学院 特別活動論 ゲスト授業（講話：目さん、田名会長、安里事務局長） ・県社協助成事業/固定ケアリングサロン（絵画セラピー：安里香代子氏/心理学セラピー：豊見山喜美氏）
7月	7日・8日（土） 14日（土） 28日（土）	・日本ケア・カウンセリング協会、沖縄ケア・カウンセリング研究会 協働活動 ・役員会（南部移動サロン・固定サロン）準備、確認 ・県社協助成事業/固定ケアリングサロン（心理学セラピー：豊見山喜美氏/絵画セラピー：安里香代子氏）
8月	4日（土） 18日（土）	・県社協助成事業/固定ケアリングサロン（心理学セラピー：豊見山喜美氏/絵画セラピー：安里香代子氏） ・ 県委託事業/宮古島フォーラム（仮案/教育：神里みどり先生・ピア：西村さん・目さん） ・県社協助成事業/離島移動サロン（ケアセラピー：豊美山、ダニエル氏、高橋氏）
9月	1日（土） 15日（土） 16日（日） 22日（土） 29日（土）	・役員会（中部移動サロン・固定サロン）準備、確認 ・ 県委託事業/久米島フォーラム（仮案/医療倫理金城隆展先生・ピア井上さん・目さん） ・県社協助成事業/離島移動サロン（ケアセラピー：カヒン先生、ダニエル氏、高橋氏） ・県社協助成事業/固定ケアリングサロン（絵画セラピー：安里香代子氏） ・本島移動サロン（南部/南城市）（教育：村末勇介先生・ピア：目さん）
10月	6日（土） 13日（土） 20日（土） 27日（土）	・役員会（北部移動サロン・固定サロン）準備、確認 ・いのちの授業（医療・教育・介護・福祉支援者1名・ピアサポーター1名） ・県社協助成事業/固定ケアリングサロン（絵画セラピー：安里香代子氏） ・本島移動サロン（中部/宜野湾市）（医療：石川清司先生・ピア：井上さん・目さん）
11月	10日（土） 17日（土） 24日（土）	・役員会（八重山フォーラム準備・離島移動サロン、準備確認） ・県社協助成事業/固定ケアリングサロン（心理学セラピー：豊見山喜美氏） ・本島移動サロン（北部/名護市）（医療：北部医師会の先生・ピア：西村さん・目さん）
12月	1日（土） 8日（土） 9日（日） 15日（土）	・役員会（県離島フォーラム・正力離島移動サロン、準備確認） ・ 県委託事業/石垣島フォーラム（仮案/医療：足立源樹先生・ピア：井上さん・西村さん） ・県社協助成事業/離島移動サロン（ケアセラピー：カヒン先生、ダニエル氏、高橋氏） ・県社協助成事業/固定ケアリングサロン（心理学セラピー：豊見山喜美氏） ・県社協事業報告準備、提出 ・合同研修会（沖縄県友声会）
2019年 1月	12日（土） 26日（土）	・役員会（今年度事業報告総括整理開始/県社協分） ・県社協助成事業/固定ケアリングサロン（心理学セラピー：豊見山喜美氏）
2月	2日（土）	・役員会（今年度事業報告総括整理開始/県委託事業）
3月	9日（土） 年度締め	・役員会（2018年度事業報告書・収支決算報告書作成） ・2019年度事業計画、その他・総会資料準備 ・ 県委託事業・県社協（民間福祉助成事業）実績報告完了・次年度申請準備

※離島フォーラム/本島内移動サロン/固定サロンは、沖縄がん心のケア研究会/日本統合医療学会沖縄県支部/沖縄ケア・カウンセリング研究会、セラピストネットワーク他、市町村、がん拠点病院[講師協力医師リスト]、各医療、介護、福祉、教育支援の団体と協働で開催していく。

※離島フォーラム 3か所/年 宮古島・久米島・石垣島開催 講師⇒医療、教育、介護、福祉関係者とピアサポーター

※本島・離島移動サロン3回/年 講師⇒医療従事者、コメディカル、ケアセラピスト、患者、家族当事者体験談等

※固定サロン9回/年⇒1回/月、開催/（浦添ショッピングセンター内コミュニティケアサロンで開催）講師⇒医療従事者

他、ケアセラピストに依頼/運動・セラピーワーク・リラクゼーション等（琉大がんセンターとがんじゅうネットに案内のパンフレットと情報掲載あり）。

※離島移動サロン3回/年 運動・セラピーワーク・リラクゼーション等 各専門セラピスト4名くらいに依頼。

※1回/月、第1土曜日 役員会/学校法人 沖縄統合医療学院 2号館 2階

※1回/週、毎月第1～第4土曜日/友声会発声教室（担当/田名・阿波連）沖縄統合医療学院2号館2階

助成：平成30年度民間福祉資金助成事業（社会福祉振興基金）

一般社団法人沖縄県がん患者会連合会

がん患者さん・ご家族・支援者のための 【ケアリング・サロン】

患者さん、ご家族、支援者も共に、カラダほぐし、ココロ癒し、互いの
ケアリングに繋がる出逢い、出来事時間を過ごしませんか♪

活動内容…ケアセラピーワーク

（水彩画スケッチ、優しいヨガストレッチ、
マインドフルネス、動作法、リラクゼーション
ボディケア等） お問い合わせ：090-9887-4043（担当：阿波連）



日程…毎月1～2回開催（別紙参照）

時間…午前開催10：30～／午後開催13：30～（約90分）

コミュニティケアサロン Ku Ra Bu

場所…あなたのわくわく来楽歩

住所：浦添市城間4-7-1 浦添ショッピングセンター3階

がん患者さん・ご家族・支援者のための 【ケアリング・サロン】

患者さん、ご家族、支援者も共に、カラダほぐし、ココロ癒し、
互いのケアリングに繋がる出逢い、出来事時間を過ごしませんか♪

毎日イキイキと輝くためのコミュニティケアサロン

開催場所／お問合せ：あなた の わくわく来楽歩 浦添ショッピングセンター3 階

住所：浦添市城間 4 丁目 7 番 1 号 TEL098-943-9388 問い合わせ：(担当：阿波連)

6 月 29 日 (金) 13 時 30 分～

スケッチ・水彩画教室

講師：安里香代子 元美術教師

6 月 30 日 (土) 10 時 30 分～

カラーセラピー

【似合う色効果で輝く“あなたらしさ”】

講師：豊見山喜美 カラーセラピスト

～ 講師のご紹介 ～



安里香代子さん

元美術教師
心理療法士・家族(遺族)ピアサポーター
一・一般社団法人
沖縄県がん患者会連合会事務局長

物づくり(絵画や焼き物)を通して、自分の心にある思いを一緒に表現してみませんか！
～どんなものでも、すべて(OK)～。好きなものを好きなように形にしてみましょう。新しい自分発見ができるかもしれません。ちょっとだけそのお手伝いをさせて下さいね。



豊見山喜美さん

沖縄がん心のケア研究会世話人
NPO日本ケアカウンセリング協会理事
色彩心理コミュニケーター/カラーアナリスト
/アドラー心理学勇気づけリーダー

☆「あなたの心と響き合う色を味方につけて、自分らしい一歩へ!!」気になる色はあなたの想いを応援してくれます。色をツールに心模様を可視化して、楽しみながら心豊かな毎日を過ごしましょう。がん拠点病院等の院内サロンや緩和ケアイベントにても活動しています。

趣意書

平成 30 年 6 月吉日

関係者様 各位

沖縄ケア・カウンセリング研究会
世話人/那覇市立病院医師 友利寛文
沖縄県立看護大学教員 大川嶺子

【日時】平成 30 年 7 月 7 日（土） 10：30～16：00

「ハラスメントの心理学・行動形成法ワークショップ」

【日時】平成 30 年 7 月 8 日（日） 10：30～16：00

「がんリハビリの新たな試み・行動形成法ワークショップ」

【場所】同仁病院 3階 ティーダホール 住所/浦添市城間 1-37-12

日本ケア・カウンセリング協会 代表理事 ・ 臨床心理士の品川博二先生をお迎えして、上記のオープンセミナー（行動形成法ワークショップ）を開催致します。

NPO法人 日本ケア・カウンセリング協会 概要

日本ケア・カウンセリング協会は、2000年3月に国から認証された特定非営利活動法人（NPO）です。私たちは看護者・介護者をはじめ、保育や福祉など、広くケアリングに従事するケア従事者の方々のメンタルヘルスのサポートをする活動を実施しています。「対人援助を通じた自己成長」の視点から、臨床や地域へのカウンセリング・プログラムを企画し、その実践的担い手としての「ケア・カウンセラー」※の養成研修を行っています。

北海道から沖縄まで全国各地で多くの研修講座を開催し、これまでに協会認定講座受講者は約50,000名以上に達します。全国各地の支部ネットワークで会員の皆さんが職場や地域で「出来ることを、出来る範囲で、長く続ける」ケアリングを実践されています。

共にケア・カウンセリングの視点を学び、自身のメンタルヘルスケア、他者の自律を助ける健全な支援者としての在り方を学んでみませんか？

皆様のご参加をお待ちしております。チラシの掲示、配布、お声かけなど、ご協力を頂ければ幸いです。ご多忙の折お手数をおかけ致しますが、よろしくお願い致します。

お問い合わせ：090-9887-4043（事務局代理：阿波連まで）

主催：日本ケア・カウンセリング研究所

共催：沖縄ケア・カウンセリング研究会 後援：沖縄がん心のケア研究会/（一社）沖縄県がん患者会連合会

ハラスメントの心理学

～その深層構造を検討する！～

しながわひろじ

講師：品川博二先生

（ NPO 法人 日本ケア・カウンセリング協会 代表理事 臨床心理士 ）

東京学芸大学・目白大学大学院・聖路加国際病院精神腫瘍科を歴任

平成30年7月7日（土） 開場 10時～

医療法人 八重瀬会

場所：同仁病院 3階・ティードホール
住所/浦添市城間1-37-12

参加費 2000円（第1部・第2部含む/当日払い）

参加対象：医療・介護福祉・教育・その他 対人関係を通じた自己成長、ケアリングなど関心のある方ならどなたでも参加可♪

内容： 第一部 ハラスメントの心理学講義 10時30～12時

第二部 行動形成法ワークショップ 13時～16時

【申し込み方法】okinawan_aloha@live.jp 又は F A X 098-943-9288 に申込書を送付♪

セクハラ（性的嫌がらせ）・パワハラ（権力的嫌がらせ）・モラハラ（倫理的嫌がらせ）等、私たちの社会ではハラスメントの問題がまだまだ適切に対応されていません。特に日本人の社会では「上位→下位」の人間関係を過剰に容認し過ぎる傾向があります。もはや、現代ではハラスメントは事件（犯罪）として追及され始めています。あなたの職場で、だれも被害者にも加害者にもならない為に、この研修が役に立ちます。

～ 裏面に FAX でのお申込み用紙添付しております。 ～

主催：日本ケア・カウンセリング研究所

共催：沖縄ケア・カウンセリング研究会 後援：沖縄がん心のケア研究会/沖縄県がん患者会連合会

ハラスメントの心理学 ～その深層構造を検討する！～

講師：品川博二先生（NPO法人 日本ケア・カウンセリング協会 代表理事 臨床心理士） ※これまでに東京学芸大学・目白大学大学院・聖路加国際病院精神腫瘍科を歴任

<参加申込書> 日時：7月7日（土）開催場所：同仁病院

返信用 FAX：**943-9288** (E-mail：okinawan_aloha@live.jp)

参加者署名欄

代表者名： _____

ご所属/職種： _____

ご連絡先： (FAX/メール・SMS等) _____

(ご本人) 氏名：	ご所属/職種：
(同伴者) 氏名：	ご所属/職種：
(同伴者) 氏名：	ご所属/職種：

参加者合計（ ）名

☆参加費は当日会場にてお支払いください。

*メール・FAXでお申し込みのできない方は、TEL：090-9887-4043

沖縄ケア・カウンセリング研究会事務局/担当：阿波連まで、お電話でお申し込みください！！

◆日本ケア・カウンセリング協会とは◆

日本ケア・カウンセリング協会 代表理事の品川博二は、「人間とは誰かを愛し、誰かに愛される者」（ケアし、ケアされる者）であり、ケアリングとは「対人援助の内にも、自己を発見し得る」という、人間の「関係的な在り方」を求める実践活動だと定義しました。このケアリングの視点から、カウンセリングを「人間本来のケアリングを回復・促進するための理論と技術」ととらえ、これを『ケア・カウンセリング』と提唱しました。日本ケア・カウンセリング協会は、『ケア・カウンセリング』の理論と技術を心理臨床の現場で実践する専門家のスーパービジョン、スキル向上の養成の場として2001年に設立され、行動形成法を主体として健全なケアリング実践のできる人材育成活動を行っています。

「がんリハビリ」の新たな試み

【日時】平成30年7月8日（日） 10:30~16:00

【場所】同仁病院 3階 ティーダホール 住所/浦添市城間 1-37-12

【参加費】 2000円（第1部~3部含む）※ご都合のつく時間からの参加も可です♪

【参加対象】 医療・介護・福祉・教育（養護・保育含む）他（関心のある一般の方も可）

この講座の目的は、がん患者さんのライフ・リテラシー向上させることにあります。疼痛緩和という「消極的」なりハビリから、「生き抜く」為の積極的なりハビリの可能性を受講生の皆様と共に探ります。リテラシーとは「物事を巧みにこなす能力」を意味する用語です。ここでいうがん患者さんのライフ・リテラシーとは、死の影に照らし返された自己の人生を振り返り、「自分と他者との適切な関係」「肯定的相互性」にご自身の「物語」を再構築しようとする、「臨床死生学」のコンセプトスキルです。構成的集団認知行動療法とリラクゼーション（自律訓練法）訓練およびナラティブ・アプローチ等を統合した新たな試みです。がん患者さんに関わる全てのケア従事者に受講をお勧めします。特にケアリングの相乗的観点から中高年の方々のご参加を歓迎します。

【申し込み方法】 okinawan_aloha@live.jp 又は F AX943-9288 に申し込み書を送付してください。
（参加費は、当日会場にてお支払いください！！）

第1部 10時30分~11時00分

「がんリハビリテーションの現状と課題」

介護ケア従事者との関わりを求めて~紡ぎたい医療~

講師：金城孝郎氏 那覇市立病院 がんリハビリ専従理学療法士

第2部 11時~12時30分

「がんリハビリの新たな試み」

ケア従事者の為の臨床死生学 ~死の光に照らし返される命の輝き~

講師：品川博二氏 NPO 日本ケア・カウンセリング協会代表理事 臨床心理士

東京学芸大学・目白大学大学院・聖路加国際病院精神腫瘍科を歴任専門は、精神科およびターミナルケアにおける認知行動療法とナラティブ・アプローチの実践研究。

第3部 13時30分~16時

「行動形成法ワークショップ」 講師：品川博二氏

<参加申込書>

「がんリハビリ」の新たな試み

開催日時：7月8日（日）10時30分～16時00分

開催場所：同仁病院 住所/浦添市城間 1-37-12

【参加費】2000円（第1部～3部含む）

返信用 FAX： **9 4 3 - 9 2 8 8** (E-mail：okinawan_aloha@live.jp)

参加者署名欄

代表者名： _____

ご所属/職種： _____

ご連絡先： (FAX/メール・SMS等) _____

(ご本人) 氏名：	ご所属/職種：
(同伴者) 氏名：	ご所属/職種：
(同伴者) 氏名：	ご所属/職種：

参加者合計（ ）名

☆参加費は当日会場にてお支払いください。

*メール・FAXでお申し込みのできない方は、TEL：090-9887-4043

沖縄ケア・カウンセリング研究会事務局：担当/阿波連まで、お電話でお申し込みください！！

がん教育「命の授業」 (6月18日) 感想文

1、今日はがんについて知り、命を見つめる授業でした。目さんや田名さんも喉頭がんによって声を失ったと 言っていて、きつそうに辛そうに声を発していましたが、それでも堂々と話していて凄いなと思いました。目さんがタバコを吸っていたからと言っていたが、村末先生が「2人に1人はがんになる」と言っていて、それだけ身近な怖い病として、もっとがんについて知っていけたら良いなと思いました。自分のお父さんも大腸がんで大きな傷跡があり、見るたびに痛々しく感じ、昨日の父の日に再発や転移について聞いて後悔していたので、少しだけ(がん)について知ることができ良かった。もっと(がん)との付き合い方を考えたいと思いました。(座安隆太)

2、がんを経験した方の話を初めて生で聞くことが出来た。がんを取り除くため声を失い、その後いろいろな方法で努力して声を取り戻したと知り、純粋に凄いなと思ったし、取り戻すのはとても大変だったと感じた。又「笑い」や「叱り」についても学ぶことが出来た。これはがんであっても無くても、全ての人に共通する大事なことだと感じた。現代では2人に1人ががんになる可能性があるを知り、遠い誰かの話しではなく自分にも直接かわることだと実感した。その上で教師として子供の様子に気付

いたり、話を聞いたりできることをたくさんしていきたいと思った。今日の話からが

んついて学べたことがたくさんありとても良かった。

(匿名希

望)

3、2人に1人はガンになる可能性を抱えていて、3人に1人はガンで亡くなってし

まう現実を聞いてとても驚きました。目さんや田名さんは喉頭を全摘出して、匂いも

分からなくなったり話すこともたくさん練習 して苦しい中で話せるようになったり

とガンから救われた後も大変な思いを抱えて頑張っているんだなと思いました。私は

肺がんで祖父を亡くしました。同じガンと言っても命が救われるガンとそうでないガ

ンがあり、がん1者さんと接する時の対応は難しいと思いました。でもどちらのがん

患者さんも頑張って生きようという気持ちは同じだと思うので、他者と同じように気

を使いすぎずに接することが大切だと知ることが出来た。

(久保田

彩音)

4、ただただ凄いなあと思った。私も歌うことが大好きで声を失うことを考えたら、そ

れだけで首回りが苦 しくなってしまうし、声を失う以外にも様々な壁が現れるの

で、自分の事として考えることがかなり難しかった。遺族の方の喪失感とか孤独感も

想像では凶れないものがあって～。だけど目の前でお話をしてくれている人たちは、

その壁を少しずつ乗り越えながら本当に「生きている事」をひしひしと感じさせられて「凄いなあ」と思わず口から洩れてしまった。命について考えさせられる貴重な時間だった。

(知名 未来)

5、今回の講義では普段聞くことが出来ない、がん患者さんの貴重な話を聞き、命について考える事が出来ました。私には想像できないような経験をされても、希望を持って生きているということを知り、とても素晴らしい人生だと思いました。また教育者として子供たちにがん教育をどのように教えていくか考えるべきだと感じました。

貴重な時間を私たちに講義をして下さり本当にありがとうございます。

(匿名希望)

6、今回の講義を通して改めて病気との向き合い方がどれだけ大変かと分かりました。病気で手術を受ける側も、その人を支えて行く人や亡くしてしまった人にも多くの悩みや不安があるのだと分かったので、教師という立場だけではなくても寄り添うことが出来たり、子供たちの周りの方の変化にも気づいてあげられるようになっていきたいと思いました。又自分の周りで大きな病気になっている方がいないので完全に気持ち分かるわけではありませんが、相手への気遣いや痛みや辛さを理解できれば良いなと思いました

(匿名希望)

7、人生で初めてがん患者さんの話を聞きました。「声帯を失うか手術を断って、そのまま死を選択するか」という普通に生活を送る私にすると想像もできないようなことでした。自分が楽しく生活している間も苦しんでいる人たちがいて、生きる為にもがいているという現実を受け正直ショックです。でもそういった方々が前を向いて頑張っている姿にはとても勇気を貰いました。「できない」普段そう思いがちだけど、「できる」という思考にしていきます。またがん患者さんにとって声を簡単に出すことは非日常です。簡単に声が出せる私達だからこそ声から伝わる相手への言葉など真剣に考えていかなければならないなと思いました。

(中川 未歩)

8、今日の授業はがん患者の方や家族の方をゲストに招いた講話でした。喉頭がんで声帯を失い、声が出せなくなったが、第二の声を獲得していて、どれほど努力してきたのだろうと思いました。(がん)と宣告されて死を身近に感じながらも、それらを全て受け入れ、私たちにメッセージを伝えて下さるゲストの方々の勇気に感謝しなければいけないと感じました。学校現場に出ると子供たちの身内にがん患者の方がいらっしゃるかも知れません。そんな中で子供たちを元気づけてあげられるように、今日の貴重な体験を心に刻み大切にしたいなと感じました。貴重な時間を作って頂き有難うございました。

(天願 俊)

9、今回の授業でがん患者についてのイメージがとても変わった。周りでがんで亡くな

った人はいる。その人明るく接してくれていた。その人だけ特別に明るいと思っていたが、それは間違いと思った。がんは身近と言うことを最近良く感じている時に、患者さんの話を聞いて良かった。人間として患者や患者の身内と接して相手を尊重することがとても大切と思った。2週間前に祖母を亡くしました。いまだに母に声を掛ける事が出来ません。普通に会話はするが祖母の話はできません。(安里さん) こういう時にはどんな声をかけた方が良いですか？

(仲宗

根 慎太)

10、目彰彦さんの話を聞いて、自分の今当たり前だと思っている声、食事、会話は当たり前なことではない、奇跡に近いものなんだと思いました。だから私は日々の生活に感謝し、健康を大切にしていきたいと思いました。また遺族の方のお話を聞いてがんは不幸な出来事ではあるが残された遺族に対して希望を残すということを知り、がんに対する見方が変わりました。がんにかかるというのは確かにつらい現実ではあるが、命の大切さを学び、将来の目標に向けて頑張つてやろうと、自分なりに今できることをやってみようという力を貰えたような気持ちになりました。将来現場に出て、がんの方、遺族に出会うかも知れません。その時に私なりに向き合っていきたいと思いました。自分なりに教師としてお話を聞いてあげられるようになりたいです。

(西原 和希)

11、今日はがん患者さんの目彰彦さんの話を聞くことが出来ました。私が同じように喉頭がんで声を失ってしまったら、どういう生き方ができるだろうと考えました。また田名さんの話を聞いて、娘さんの言葉から活力を貰えたことや安里さんの遺族の辛さを知ることが出来て、がんになった本人だけでなくその家族になることが決して他人事では無いと実感しました。また辛さを語ることの難しさという話があり、本人や家族の話を直接聞くことができるのが一番良いけれど、教師が語ることも大切だと解りました。「死」を意識することで「生きる」ことを見つめ直すということの意味が解りました。子供たちにもそれを実感できるような特活を作っていけるようにしたいです。

(當銘 愛未)

12、私は今まで喉頭がんを患って声が出せなくなった人を目前で見たことが無かったので、目さんや田名さんを見て、実際に話をして貰ったこの経験は非常に自分の今までの考えを変えました。今までは喉頭がん全摘出手術をしたら一切声が出せなくなると思っていましたし、食事の事も考えたことが無かったので、自分が考えていたよりもできることがあり、また一方で苦しい思いをしているんだなあと思いました。本当に詳しく喉頭がんについて理解でき、又考えさせられました。

(玉城 豪之)

13、村末先生から紹介を受け、マイクを貰ってしゃべった瞬間、がんの怖さを実感しました。普通の見た目だったから尚更がんの恐怖を感じました。いつも通りに生活していたのに急にがんになることがあるのも実感しました。またなかなか見つきり難くてがんと宣告を受けるまでに手遅れになるんだとも思いました。しかしがんの手術後に元気になる人もいて素晴らしいと思えました。声を出すのにもたくさんの努力をしていたと思います。そんな様子を見せず、体験を教えて下さった目さん、田名さんは本当に心が明るく強い人だと思えました。良い話が聞けて良かったです。有難うございます。

(匿

名希望)

14、「与えられた試練をありのままに受け入れる。自分らしく輝くために強く優しく自分らしく生きられるように」この言葉にとても心が動きました。がんになり、手術や余命を宣告されたら～。そう思うと自分にそれを乗り切れる力だとか勇気があるのかと少し怖くなりました。実は私の母は12肢腸ガンだった。母は私に何も教えてくれずに闘病していた。家にもいないし、会えないし不満ばかりぶつけていた自分が恥ずかしい。今もたまに不調があつて、それでも何もできていなかった自分を見直したいと思えました。「命」って自分だけのものではないし周りの命ももっと大切にでき

る人になりたい。

(金城 良奈)

15、今日は喉頭がんを患い、喉頭全摘出手術を受けた目さん、田名さんの講話を聴きました。私は喉頭がん患者と会うのは初めてで、正直、目さんの第一発声を聞いて驚きを隠せませんでした。しかし、目さんのお話を聞いて音声を獲得するのは凄く難しいと知り、ものすごい努力をされたのだと思いました。また喉頭がんの全摘手術をするという決断に踏み出すのもそうとう苦しかったと思いますが、前向きにがん闘っている姿を見て、自分も負けていられないと感じ、命を大切にしながら1日1日を大事に歩んでいこうと思いました。今日は貴重なお話を聞くことができ、とても良い機会になりました。ありがとうございました。 (匿名希望)

16、本日の講義はがん患者会連合会の方々によるお話しでした。咽頭がんの患者の方と実際にお話しする機会は初めてだったので、又1つ自分の人生にとって良い経験が出来た時間だったと思っています。命について、またいろいろ考える機会になったので、今後も様々なことを想定して生きて行こうと思いました。(古謝 佑汰)

17、今日は喉頭がんて声を失ったお2人のお話を聞かせて頂いたが、2人とも声を失っても様々な方法で声を取り戻そうとし、実際に自分たちがハッキリと聞き取れるし

ベルの声を取り戻されていた。この前向きな姿勢は病気との付き合い方としては、とてもすごい事だと感じた。そして将来的に自分もがんになる可能性もあり、周りの人や生徒、その家族にも起こりうることである。という点からはそんな時に自分が周りの人が前を向けるような考え方や声かけを自分なりに持つておきたい。

(比嘉 優太)

18、今回講義を受けて、実際にその人たちから話を聞くと、自分の目、耳などを使つてのその人の息づかいから、教室の雰囲気から、その本人たちの気持ちが伝わってきているように感じることができました。実際にしゃべって貰うと、声が自分たちよりも弱々しく聞こえたのですが、言葉の一つ一つには力強い意志が込められており、又力強さだけではなく美しいとさえ感じてしまい、無意識のうちに話に吸い込まれていました。 (黒島 正大)

19、私の祖父もがんで亡くなった。だからこそ今日のお話しは聞きたいと思う反面いろいろと思い出すこともあり、聞きたくないと思う気持ちもあった。でも患者さんの立場、がんで亡くなった身内を持つ立場の両方のお話を聞くことが出来て本当に良かったと思う。田名さんのお話しの中で「なんで私が?」「まさか自分が!」「どうして自分が?」と言っていたのがすごく印象に残っている。私自身は自分になるかも知れないと言う意識は低い。3人に1人はがんで亡くなってしまおうと言われてる今、自分

とは無縁とは思わず、自分、身内は勿論、これから関わっていく人全てにその可能性
があることを忘れず、人を大切にしたいと思った。

今日は本当に貴重なお話が聞けたと思う。

(匿名希望)

20、今日はがん患者さんのお話を聞きました。がん患者と聞いた時に暗いイメージを
持っていたのですが、一生懸命生きている患者さんを見てなんだか元気を貰いまし
た。がんになって好きなことが出来ないし、声を失うのは辛い事だと思います。しか
し第二の声を手に入れて生きている患者さんを見て凄いなと思いました。またがん患
者は2人に1人がなると話していて、周りに居たらどう接して良いかわかりませんで
した。しかし目さんが言っていた普通に接することががんの事も忘れられてよいのだ
と思いました。人それぞれだと思うので、その人のことを考えながら接して行こうと
思いました。 (普天

間 佳苗)

21、今日の講話では、喉頭がんを乗り越え、再び第二の声を取り戻したお話を聴かせ
て頂きました。正直私は目さんが話し始めた時に驚きました。普段聞きなれない声だ
ったからです。目さんが自分の体験談を話してくれ、がんと宣告された時の心境を赤
裸々に語ってくれて胸が痛くなりました。また田名さんの手術を受け、声を失った時

に娘さんからかけられた詩を聞き、命のあり方について考えさせられました。そして残された遺族の立場から安里さんが話してくれた時に、私もがんで亡くした祖母の事を思い出して苦しくなりました。祖母が亡くなってから、もっと会いに行けば良かった。もっと時間を大切にすれば良かったと後悔したことを思い出しました。

(荷川取 すず)

22、今回ガンについての講話を聴いてまず思ったのは、こんなにも必死になって私たちのために話して下さいととても有難いということです。目さんの話しでは喉頭がんの生活や笑うメリット、叱り上手についての話がとても印象的でした。田名さんの話では再発という壁が大きかったんだと解かりました。「他人にはない苦しみを受け止め、輝く場所になる」と言う言葉がすごい思考だと思いました。遺族の人の話では、私自身のお祖父ちゃんがガンで亡くなったことを思い出し、やはり夫婦や家族はとても大切な存在で、どんな時も支え合って生きて行かないといけないと思いました。当たり前前の事に感謝して生きて行きたいです。

(島根 明日香)

23、やはり「死」というものを踏まえての「生き方」を教えるには、実際に向き合った人たちからの話を聴くというのはとても効果的で、めったにできない有難いことだなと感じました。便利になってきて医療も発達し、死という考えがだんだん意識から

無くなっていきがちですが、やはり自分が今生きていて、これからをどう生きるに関して欠かせないキーワードなんだと思いました。またこういったテーマは全ての人に通じるもので、生徒たちへの教育の前にまず自分たちが考えていくべきものであり、人生において教育の観点からも大切なものだと感じました。

(大嶺 疾風)

24、本日はがん患者さんによる講話をお聞きすることが出来ました。お話ししてくれた目さん、田名さんそして安里さんはがん患者または遺族の方々とは思えないほど生きるパワーをお持ちで、話を聞く中で知識だけでなく、こちら側が生きる力を頂きました。私自身七年前に母が乳がんになり、現在は幸いにも完治し元気に過ごしていますが、つらそうな母を何度も見てきました。母が入院から戻ってきたとき私に言ってくれた言葉が「なるじゃなくて、私がガンになって良かったね」というものでした。どうしてそんなことを言ったのか当時は理解できませんでしたが、今日のお話を聞いて、その意味を理解できた気がしました。”生きる”とはつらい事も苦しい事もあるけどそれ以上の楽しみや幸せがあるというふうにおっしゃっていましたが、その通りだと感じました。非常に貴重な時間、お話を本当にありがとうございました。

(鉄本 成美)

25、自分も祖父を亡くしているので、幾つか実感を伴って理解できることが多々あった。遺族の話を聞いていると「僕が生きる今日はもっと生きたかった誰かの明日かも知れない」という歌詞や「神は乗り越えられる試練しか与えない」や「何かを成し遂げる者とは、歩み続ける愚者である」と言った名言が頭をよぎりました。「がん患者は暗いイメージではあるが、闇を抜けたからこそ、その明るさがある」など感じました。しかし今の状態になる為に多大な努力があったことも感じました。

(匿名希望)

26、「死ということ」また「生きるということ」を改めて考えることになった時間でした。生きているということは、その生きている誰もがいつかは死ぬ。私もいつかは死ぬ。しかしガンになるとそれが一層近づいてしまうというか、いつかではなく死ぬのが一カ月後かも知れない、明日かも知れない、今日かも知れない、という恐怖と同時にそれだけではなく、必死に生きて、生きることの輝きも知った。私は生まれる前に、身内を病気で亡くしています。生まれる前だが身内の哀しみはとてもわかります。将来私は小学校教師になりたいと思っています。2人に1人はがんになる可能性がある現代、子供や子供を取り巻く人たちともしっかり向き合い、今日を思い出して現実と向き合っていこうと思います。本当にありがとうございました。

(平良 明日香)

27、今日の講義で三人の講話を聞いて、がんについて理解することができました。また改めて健康と命の大切さと真剣に向き合うことができ、とても良い機会であったなと感じました。私も身近な人を2人がんで亡くしていて、話を聞いていて涙が出そうなほど胸がいっぱいになりました。私が将来受け持つクラスにも、同じようにがんで身近な人たちを亡くしてしまった子供たちがいるかも知れないので、子供の気持ちに寄り添って話をしていければ良いなと感じました。

(匿名希望)

28、歌手のツクさんが食堂発声法を練習しているchauニュースを聞いたことがるが、直接「第2の声」を聴くと本当に会話ができるんだと驚いたし、その努力に凄いなと感動し、体が震えました。私の父は声を失うことまではいかないが、失語症をわづらっています。うまく相手に伝えられずイライラしてるところも見てきましたが、素直に向き合えない自分がいます。今日のお話しで、心が痛くなることもありました。が、家族も向き合えないといけない事なんだと考えさせられました。

(宮城 いづみ)

29、がんは重い病気で、がんになると余命が少ないというイメージでした。しかし今日講話をして頂いた田名さんは喉頭を摘出して声を失っても、違う方法で声を出す努力をして、力強く生きている姿は本当にすごいと思いました。僕の知り合いの子は母

が胃ガンになり意を全て摘出したそうです。それでも普通の生活に戻るために一生懸命に生きる努力をして今までの生活を送っています。その方に合ったこともありますが、がんを患ったとは全く分かりませんでした。しかし胃が無いので食事は多少難しい部分もありますが、みんなと一緒にご飯を食べていました。そういうところを見ると今の健康な体で過ごせている自分をもっと力強く生きて行かなければいけないと思いました。

(匿名希望)

30、今日の講義ではがんについて学んだ。喉頭がんの元患者さんに貴重な話を伺った。摘出したら声を失うことは死っていたが、他にも生活に支障が出たり、声を取り戻せることを知った。私の父もがんではないが病気にかかっている、どのように接したら良いか悩んでいたが、今日でその手がかりがつかめた気がした。悩み過ぎに接しようと思う。ありがとうございました。

(匿名希望)

31、今回がん患者さんの話を聞いて、自分は初めてこのような患者さんを見て、最初は本当に辛くて重くて聞くのがきつかった。村末先生の言うように身近に感じるという機会はなかったので、多くの良い体験となりました。なる前と後でどのように変わってしまったか、不便な事、生活面で変わってしまった事などを聞いて、実際テレビ

や新聞で見たり聞いたりする事よりももっとリアルで、「生」に対してがんに対して考える授業になりました。そしてできないことを考えるよりも、生活の中で何ができるかを見つけて、生きて行くところが大切だと感じ、今こうして何事もなく生きられることに対して本当に当たり前ではないと思いました。

(匿名希望)

望)

32、今日は貴重なお話を聞いて良かったです。がんと身近に関わる人のお話を聞く機会があまりなく、とても新鮮でした。がんと闘う人、その人を支える人、様々な立場から聞く話からとても刺激を受けました。「命を懸けて」お話しして頂き本当に感謝です。有難うございました。話を聞いて時間の大切さを改めて実感しました。死に向かい続けているこの時間をどう過ごしていくのか、今一度考えていくべきだと気づいたし、死と向き合うことがどれほど必要なのか感じました。自分に与えられた試練としっかり向き合い、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。

(金城 さやか)

33、最初に目さんから喉頭がんについてお話を聞きました。喉頭全摘出手術をした目さんはシャント発声法と言う発声方法で話をしており、普通に聞き取れる自然な感じでお話をされていました。手術を受けるのにどれだけ考え、悩んだのか、手術が成功してもどれだけ辛い生活をしてきたのか、一つ一つ話していく度に、とっても考えさ

せられました。がんを経験し、それを克服して来た人からお話を聞くのは初めてでした。リアルな経験を聞き、本人から直接お話を聞くことができ良かったと思います。また沖縄に「がん患者会連合会」と言うのがあるというのを今日初めて知りました。がんというものは思ったよりも私たちの身近にあり、もっと理解を深めていく必要があると思いました。

(匿名希望)

34、私は今日のお話しで、特に発声法のお話しとタバコのお話しが印象に残っています。発声法はお話しにも出ていた歌手のツンクさんの声帯摘出のニュースを見た時に、とても印象に残ったため知っていました。特に食道発声法はその原理がとても身近な現象であるゲップの応用であった為印象に残っています。実際聞いたのは田名さんが初めてでしたが、声を失ったときも取り戻すときも本当に辛いものだったろうと感じる声でした。私が同じ状況で声を失ったら、果たして取り戻す努力ができるかと考えると全く自信がありません。タバコはそんな私が陥っては生きる希望すら失いかねない状況を招くかも知れません。私の家族や友人、知人には喫煙者が多く、私自身喫煙者です。私にとってあまりにも身近に存在する状況であり、考えなければならぬ立場にあることを自覚することに繋がるお話しでした。

(匿名希望)

35、私は周りにがん患者さんもおらず、初めて患者さんのお話を聞くことができました。私たちのために一生懸命実体験をお話しして下さり、患者さんの気持ちや私達なら当たり前のようにある声や命の大切さがすごく伝わりました。当たり前のようにある声や一本の髪の毛でも何でも自分の中の一つでも欠けると、当たりの生活ができなくなって、その当たり前にある自分の一つ一つが本当に大切なんだと思い、これから感謝して生きて行こうと思いました。一生懸命に本気で自分の命を生きて行こうと思いました。

(知念園乃華)

36、正直に言ってしまうと、話だけでは病気の大変さがうまく感じ取れない面もあります。でも喉頭がんに関するデータと、明らかに大変そうな声で話してくれたお二人の姿を見ているとここに立つだけでも辛い事だったということが伝わりました。声を失って臭いなどの他のものも失ったと聞いて、いろいろなものが繋がり合いながら

「命」ってできているんだなと思いました。

(匿名希望)

37、2人に1人ががんになる世の中。私が教師になる上でも、今から死ぬまで、生きている中で考えていかなければならない事だと改めて感じました。発声法から術後の生活の中での気を付けることなど、知らない内容ばかりでした。子供たちの中に身内にがんの方がいた場合、先生がおっしゃっていたように、今回の講話を聞いて学んだ

ことは、とても生かされると思いました。今回講話をされた方々からは「生きる力」をととても感じました。がんだけでなく、私も与えられた試練を受け入れ日々生きようと思いました。本当に貴重な体験を有難うございました。

(大城 莉子)

38、初めてがん患者さんの話を聞いて、いろいろな感情や気持ちが沸き上がりました。自分が健康で良かった。こうして健康な状態で日常生活を送れることは当たり前じゃないんだ。一度声を失ってもこんなに前向きに生きている人がいるんだ。もし自分の家族の人ががんになってしまったらどうしよう、などといろんなことを考えさせられた時間になりました。私は健康ですが、いつかがんになってしまうかも知れないと考えると、もっと今ある時間を大切に過ごしていかないといけないと感じました。そして教師になったら子供たちの心に寄り添える教師にならないといけないと感じました。

(匿名希望)

39、今回がん患者さんの話を聞いて「生きること」についての考え方が変わりました。がんと言う宣告を受けどん底まで落ち込み、どうしたらよいのか判らなくなると言っていました。自分も落ち込んでいる時、自分は次にどうすればよいのか、あの時こうしとけばよかったと自分と向き合う時間が自然と増えていたなと感じました。

そこで一人の人間としてさらに成長できると思いました。教師として児童、生徒と関わっていく際、病気など生死と向き合わなければいけない時が必ずあると思うので、今回感じたことを忘れず接して行ける教員になりたいと思います。

(匿名希望)

40、今まで会ってきたがん患者さんの中で一番心が苦しくなった。もし自分が同じ立場に立ったらどんな判断をするだろう？私も目さんと同じで歌うことが心の底から大好きだ。音声機能を失うなんて死と同じくらい私にとっては辛い。しかし命を選択した目さんや田名会長さんを見て「生きる」に一生懸命であり、「ヌチドウ宝」であることを強く感じた。また家族ががん患者になったらと言うことを考えたことがなかったので良い機会となった。家族と話し合う場が必要であると感じました。

(匿名希望)

41、これまで「がん」と聞くと本当に辛いというイメージが強くて、自分の家族が「がん」になったらとても悲しいと思うし、もし自分が声を失って歌えなくなったら...と想像したらやっぱりショックを受けると思った。でもがん患者さんの話を聞いてみると、前向きに病気と闘おうと頑張っていてとても強い気持ちを持っているのだと分かった。それにその後からも自分に出来る事を見つけて挑戦している姿がすごいと感じた。教員の立場からだけでなく、他人を思いやって尊重することは大事で、相手

の気持ちに寄り添える人になりたいと思った。（知花 真優子）

42、私は本日の講師の方々から生きるエネルギーを感じた。紹介にもあったが本当にかん患者なのかと疑った。話し始めた時は正直驚いた。しかしその分、力強さを非常に感じた。

話を聞いていて少し怖い感じも伝わってきたからだが、がんに蝕まれていく過程から闘病の話など貴重な体験のお話を伺うことができ、大変有意義な時間であった。2人に1人が罹るという話をうけ、自分もその可能性が大いにあることを知った。若いうちから、できることから、自分の健康に気を遣っていこうと思った。二〇歳からの飲酒には気を付けたい。

（東条 準也）

43、私も、一緒に暮らしていたお祖父ちゃんをがんで亡くしました。昔は「将来がんにはかかりたくないな」程度の気持ちだったが、身近な人を亡くした後は本当に辛く、今までにない悲しさだったので「がんなんてこの世からなくなれ！消えろ！」と強く思っています。がんを受け入れ、自分らしく生きる前向きな話もよく聞かすが、やっぱりがんに対するマイナスなイメージは消えないままです。しかし私はお祖父ちゃんがなくなる三週間前にがんであることを知りました。お祖父ちゃんのがんを患っているにも関わらず私にいつも通りに接し、話しかけてくれたのです。今日の授業で学

んだように、お祖父ちゃんはがんを受け入れ最後までお祖父ちゃんらしく生きていたのかもしれないと思いました。

(平良 彩華)

44、「喉頭がん」があるということを今日初めて知りました。当たり前のように出ていた声を失うということは私が想像もできないくらい、辛く苦しい事ではないかと思いました。しかし目さんや田名さんのお話しで第二の声を得て、前向きに生きることを決めたことや家族や仲間を支えらたと聞き、命の大切さや生きることの大切さを知りました。またがんが身近な存在であることにも気づかされました。私は今日の講義で得たことを将来の授業や生活にも活かしていきたいです。

(島田 悠那)

45、「2人に1人ががんになる。」その言葉を知った時、「がん」という病気が他人事ではないという印象を持った。今回、がん患者の立場から目さんと田名さんの経験談、そして安里さんの遺族目視の体験談を聞いていて、私はふとあることが頭によぎりました。それは「人は一人で生きていない」という言葉です。この言葉は私が高校時代に、がんを治療していた患者の方がおっしゃったことですが、目さんや田名さんも声を失い、今まで出来ていたことができなくなるという辛い経験をし、「生きる」ことが嫌になったこともあったと思います。しかし、支えてくれる家族や友人の存在が

彼らの「生きる意味」になっていたのかなと思いました。「人は人が支えながら生きていく」ことが子供たちに伝えられるようになりたいと思いました。

(匿名希望)

46、今日の講義でがん患者さんお話を聞いて、がん患者さんに対するイメージがとても変わりました。今日は私たちのためにがんに関する知識やがんになった経緯、「今の状態」などをたくさん話して下さい嬉しかったです。「生きる」と言うことは当たり前的事ではないし私たちの身近にあるのだなと実感しました。ゲストの皆様はこうやって自分の体験談を話して下さいましたが、実際には私たちの想像できないほどの苦しみ悩みがあったのだろうと思うと本日の講義をきちんと心に受け止めて、これからの生活の中や教育現場でも活かせるようにしたいと思いました。生きていることを当たり前と思わず、本日の講義を含め、いろいろなことに感謝していきます。有難うございました。

(知念 麗愛)

47、喉頭がんで声帯を摘出してもしゃべれるようになる聞いたことはあったけど、実際に話す声を聞いたのは初めてで、正直声を聞いてびっくりした。話すことも容易ではないはずなのに、自身の経験をお話し頂いて考えさせられる場面がいくつもあった。辛い経験を乗り越える強さがあって、今生き生きとしているのだろうと思った。

がんは2人に1人が罹るほど身近な病気であるが、目を背けがちだと思う。がんにどう向き合うのか考えていきたい。

(匿名希望)

48、今回がん患者さんの話を聞いて「生きること」について改めて考える機会になりました。実際に「死」と向き合っていくことの怖さや悲しさを乗り越え、「死」と向き合うことで「今を輝かせている」ことは本当にすごいことだと思いました。「生きる」ということを考えるときに実際に「死」と向き合っている人の話を聞くことで心で考えることができるんじゃないかと思います。今を生きられている事に感謝することが私の今を生きることに繋がっていくし、生きることを考えることで生きることの大切さなどを感じることができるんじゃないかと考えました。今回は本当に貴重なお話を有難うございました。

(多和田 有紗)

49、今日の話聞いて、すぐ家族や友達の事を思い浮かべた。リアルな内容は想像に火をつけ、自分の親ががんになったら？死んでしまったら？あれこれ考えた。これは今日来て下さった皆さんが持っている命のメッセージが私の心に突き刺さったからだと思う。とても辛い状況から懸命に生き、私たちに語り継いでくれた事は人生の中でとても大切にしていきたい。そして私がガン患者やその周りの人と向き合っていくと

きにも世界観として忘れずにいたい。親父もタバコと酒が好きなので、今できることを考えて大切な人と向き合う。当たり前だけど、恥ずかしい事だけど、勇気を貰った。有難うございました。 (匿名希望)

50、実際にがん患者さんの話を聞くと、本で読んだり、映像で見たりするよりも、よりリアルに患者さんの状況を感じることが出来た。自分が健康なので声を失うということがとても想像できず、声を聴くと苦しくなった。しかし一度失った声を、元には戻らないとしても取り戻すことができるのはすごい喜ばしい事なんだろうなと思った。もし私の身内ががんになったら、最後の質問で答えてくれたように、普段通りに接して寄り添っていきたいと思う。

(匿名希望)

51、本日の講義はがんを患った方のお話しを聞きがんについて学びました。私自身初めてがんを患った方にお会いしお話を聞くという体験をしました。目さんや田名さんは人間の生活で必要な声を失うというとてもショックの大きい出来事であったのに、元気よく第二の人生を送っていて驚きました。そして実際にがんについて話を聞いたことやがんと言う病気について初めて考えたので、授業前と後でガンに対して意識が変わった気がします。将来、教育者になる上でもがんに対する知識を身に着けると

もに、私を含めがんになる可能性もあるので他人事とは考えないようにしていきたい
と思いました。

(飯田

健太)

52、目さん、田名さん、安里さんの話を聞いて、数年前に胃がんで亡くなった親戚のおじさんを思い出した。胃を全摘し、それからどんどん体が細くなって小さくなっていった。身内の前では、なるべく明るく前と変わらぬようにふるまっていた。身内の前では、なるべく明るく前と変わらぬようにふるまっていた。事が思い出されてこみあげてくるものがあった。目さんや田名さんは、がんを乗り越え、生きているということを私たちの前で一生懸命声を出して教えてくれたので、私にとって大きな生きるパワーを与えてくれた気がする。お話を聞いたおかげで、どういう風に乗り越えたのか、周りの支えの大切さを知ることができた。いつだれががんになるか分からない世の中で、これから先生になってもならなくても今日学んだことは生きてくるだろうなと思った。今日は私たちのためにお話しをしてくれて本当にお忙しい中有難うございました。

(末吉 真己)

53、今回の講義では初めて声を失った方と出会った。ガンというのは内臓に出来るイメージがあったが、ガンは体の様々なところにある可能性があることを知った。

目さんたちのしゃべりを聞いて初め少し引いてしまった。がんを患うと様々な病にかかってしまい、その大きな原因である酒、タバコの怖さを改めて実感した。今自分が健康な状態で何不自由なく生活できていることに感謝していかなければいけないということも感じた。

(匿名希望)

54、今日はがんについて話を聞きました。咽頭がんになり、咽頭を全摘出すると声を失うだけでなく、臭いを失ったり、体に力が入りにくかったり、気管孔から一滴でも水が入るととても苦しいなどと言うことを初めて知り、喉頭がんがとても大変な病気であることを初めて認識することができました。実際にがんになった方々が話をして下さったことで、話すのもとても大変そうにされていて、がんになった時の辛さや大変さと言うのがとても伝わってきました。がんになった時の事や、身近な人ががんになった時のことを考えると、がんについての予防やなった時の病状などもっと知ろうと思いました。

(匿名希望)

55、今日の講義では、がん患者さんとその遺族の方の貴重なお話を聞きました。がん患者さんの目さんと田名さんの話を聞いて特に印象的だったことは、できない事じゃ

なくて「あれもできる」「これもできる」と前向きな姿勢で、生きる上で大事な視点であると感じました。安里さんの話では、「相手の気持ちに寄り添う」事が大切なのだと思います。質問でおじさんが闘病中でもあり、私も祖母が（もう前に他界しました）がんではないですが、かなり重度の病気で、あの時は小学生で無邪気に祖母が亡くなるまで、ずっと一緒に居ましたが、良く看護師さんやお医者さん「いつも通りにいてくれて有難う」と言っていた理由が今日分かったような気がしました。今日は貴重な話をして下さり、本当にありがとうございました。

（知念 涼）

56、“がんは終わりじゃない。”今日の講演を聞いて改めて感じさせられました。目さんの喉頭がんの話の中で「これもできる」「あれもできる」と思いながら「生きていく」との言葉が心に残った。歌を歌えない！話すことが大変！そんな当たり前の行動が当たり前で亡くなったらどんなに苦しいだろうと考えながら聞いていたが、この言葉にはっとさせられた。「これもできる」「あれもできる」からは前向きなエネルギーを感じる。普通の事が普通にできなくなってしまうてもそれが「終わりじゃない」ないんだと気づかされました。私の母も七年ほど前に癌になって闘病生活をしてきた。再発のリスクを持ちながらも、母は何事もなかったかのように元気だ。がんになってもたくましく前向きに、そして周りの人ががんになっても前向きに支えられ

るように考えていきたい。

(諸見里 ちひろ)

57、本時の講義では、がん患者の方をお呼びしてがんを通して命について考えました。こうやって実際にがん患者の皆さんの体験を聞いて、がんについて初めて知ることが多く、また当事者の方だけでなく、ご遺族の方からお話を聞いて、当事者だけでなく家族の方へのサポートも重要であると感じ、そういうコミュニティーがあることが知ることもできて良かったです。目さんも田名さんも今はとても明るく元気でこのような活動を続けていて、とても尊い命を感じることができました。安里さんも自分たちに向けて、命の繋がりメッセージを伝えて下さり感動しました。このような貴重な機会に参加できてとても良かったです。伝えて頂いたからには自分も何か伝えられるようになりたいと思いました。

(石嶺 佳子)

58、今日は3名の方に講義をして頂きました。2名のがん患者さんと八年前にパートナーを亡くした方でした。がん患者の方の話聞く機会はなく、今日聞いて自分たちができることって何だろうと？と考えました。まずがんにならないように気をつけるけど、この(がん)と言うものを理解することが大事だと思いました。そして身

内に癌になる人が出るかも知れないので、できるだけ多くの事を知ることが大事だと思いました。 (嵩原 安貴)

59、最初に目彰彦さんの声を聴いた時、とても驚きました。発声方法が違うからと言って、声の質が変わるなんて思ってもいなかったからです。表現が悪いかも知れませんが、声の質が悪く正直聞き取りにくかったです。しかし私たちが普段話しているような発声方法とは全く異なる難しい発声法を獲得しており、自分にはできない事だと思いました。今は自分は声帯を使って話すことができていますが、2人に1人ががんを患う現代の中で、自分ももしかしたら、声を失うかも知れません。そのようになつたら話して下さった方々のように、教壇に立って自分のことを説明できないかも知れないと思いました。有難うございました。 (中

村 沙洋美)

60、今回はがん患者の方、患者遺族の方がゲストティーチャーで、講義をして下さいました。喉頭がん患者の目さんのお話しを聞いて、私もおしゃべりが好きで、歌を歌うことが好きなので自分に置き換えると、とても辛いと思いました。田名さんのお話しは、がんになってもとても前向きで声を失っても発声法を変えて声を出して田名さんがおっしゃって下さった「検診を忘れずに毎年行って下さい」という言葉を忘れずに生きて行きたいと思います。また遺族の方の話聞いて、家族の誰かが病気に

なったり、亡くなったりすると誰でも辛いと思うけど、家族を励ましたり、支え合うことが大切だと思いました。教師になって命の大切さを子供たちに伝えるときに、自分や家族、友達のなどのすべての命が大切であり、健康がとても有難いものであると伝えたいです。(西平 未純)

61、今回はがん患者さんと、その家族のお話を初めて聞くことができた。自分の現実を受け入れて、それをまたお話しするというのはとても辛い事にも関わらず、こんなに長い時間体験をお話ししてくれたのはほんとに貴重なお話しでした。がんがあるということを知っていても、その体験をして実際どうだったのかを聞けるのと聞けない状況は全く違うものがあった。今日命の大切さを知り、生きる事、今検診を怠らない事や死を意識して生きることについて考えることができた。このことを子供たちにも伝えていきたいと思った。またそのような子がいた場合にも何があったか見極めながら相手の立場に立ち、普段通りに接することや傍にいることを意識したい。

(匿名 希望)

62、喉頭全摘手術後の生活のお話を聞いて、声が出なくなるだけではなく、鼻が使えず匂いを失い食事が楽しめなくなったり、力めなくなってしまうなど、体に大きな影響を与えてしまうことになるかと講話を通して初めて知りました。それから声を

失った後、第二の声を得るために三年ほど訓練が必要になることが分かった。今日この特別授業で講話をして下さったがん患者さんの強さをとても強く感じました。がんになって落ち込んでしまったことは勿論あると思いますが、それでも前向きにがんを闘い、がんのことをより多くの人に知って貰うことで、自分も今後がん患者さんとの関わりがあった時は病気のことをよく理解しながら関わって行きたいと思いました。

(匿名 希望)

63、今回、患者さん2人と遺族の方の話を聞いて、衝撃がたくさんありました。目さんが、がん宣告を受けるまでの流れを聞いていて、自分のお祖母ちゃんのがんになった時と似ていると思いました。だから嫌な予感がした。しかも何となくその気持ちが分かる気がしました。それと私のお祖父ちゃんもがんで声をなくしました。その時幼かったので私はお祖父ちゃんは急に声が出なくなったとだけ聞かされていて、そんなに重くは受け止めていませんでした。もちろん今はがんが原因だと判ります。お話を聞いていてこんなに大きな決断が迫られていたんだと知りました。そして最後に遺族の方の話を聞いて、がんを克服したお祖母ちゃんに会いたいと思いました。

(匿名 希望)

64、今回初めてがんで声を失った人の話を聞きました。声を出すことすら精いっぱいの中で一生懸命話して下さったと思います。最初ガラガラ声を聞いた時、とても怖かったです。声を失うということはこんなにも辛い事なんだなと思いました。しかし時々冗談も交えながら明るく話されていて、悲しい事を乗り越えてきた強さを感じました。やっぱりお酒、タバコは良くないなと思いました。

(匿名希望)

65、私の祖父母もガンが原因で亡くなった。初めて身内に不幸があったのは母方の祖父で、家も近く毎週のように祖父のところを訪れていた。だからちっち (祖父の愛称) が入院した時も、中学校の部活が忙しくても必ずお見舞いへ行った。私は話すこと、触れる事をたくさんやった。だんだん衰弱していくに映れ、話しかけることすらとても辛くなってきた。「バイバイまた来週ね！」とも言えなくなった。すぐに泣きそうになるからだ。亡くなった時はめちゃくちゃ号泣したし、心がすごく痛かったけど、病室で一緒に居た間はかけがえのないちっちとの思い出になった。死を初めて目のあたりにして生きる意味を考えるようになった。世界の中のたった一つの命なんだと気づくことが出来た。改めて今回の授業を受けて死を見つめることについて考えさせられた。

(匿名希望)

66、「全ての命に繋がる無限の何かをみんなは持っている」という言葉が心に刺さりま

した。自分は誰かのために何かできるような力は持っていないと思っていたからです。私は祖母をがんで亡くしましたが、その時に悲しんでいる母に声を掛けてあげられなかったという後悔が今でも残っています。あの時何もできなかったという気持ちから、母に変に気を遣ってしまい、母に気を許すことが出来ない自分が大嫌いで絶対に許さないと自分を責めていました。たぶん自分はこれからも自分自身を許すことはないだろうし、「身内に何もできないんだから他人に出来る筈はない」と思い続けるかも知れません。しかし子供達には自分のようになって欲しくないのです、上の言葉を子供たちに伝えていきたいとおもいます。すべての言葉が身に染みた講演でした。

(比嘉 絵野)

67、今日の授業はがん患者の方お2人と遺族の方の貴重なお話を聞かせて頂きました。

失礼になりますが、最初に目さんの声を聞いた時は驚いてしまいました。けど、がんを患い大きな手術、苦しい治療を乗り越え、新たな声を獲得され、その声で自分たちに向けて発して頂いたお話しはとても心に響きました。遺族の安里さんのお話しの中で印象に残っているのは旦那さんの死に際の「有難う」という言葉に救われたという話です。大切な人に先立たれるという経験はとても辛く思い出すのも苦しいはずなのに、そんな体験を少し話して下さってとても有難いなと思いました。

(仲宗根 飛斗)

68、今回の授業で、喉頭がんの患者の方である目さんと田名さんの貴重なお話を聞くことが出来た。そしてあまり聞く機会が少ない遺族の方のお話しも聞くことが出来た。喉頭がんの事は“声をうしなう”と言うことだけしか知らなかったのだが、実際のがん患者の方々の話しを聞いてがん自体のことで初めて知ったこともあったが、「生きること」や「生き方」、「考え方」を改めて考えさせられた。自分たちの“当たり前”は誰かの当たり前ではないのかも知れないし、そもそも当たり前は無いのかもしれないから、いろんな立場の人の考え方や生き方を多く知りたいと感じたし、もし教師になった時、子供にも伝えたいと思った。今日はとても貴重な お話をして下さってありがとうございました。

(上原 桂乃)

69、今回の授業では、命の事について改めて考えたのと、自分の人生についても考える時間となりました。生きることはどんなことなのか？これからの人生で大きな試練が待ち受けていたとき、自分は前向きに乗り越えて行けるのか？授業が始まる前はネガティブなことばかり考えていましたが、友声会の方のお話しを聞いていると、今の自分をありのままに受け入れて、自分でできることを一生懸命にやっていくことが生きることに繋がるということや人生の坂（上がり坂、下り坂、まさか）の話やたくさ

んのお話しが聞けて、自信を持つことが出来ました。

(大城 璃子)

70、私にはなんだかとても衝撃的で、どんな言葉に表せば良いのだろうと考えました。患者である目さんと田名さんが話している間、何のどんな気持ちからか分からないけれど涙が溢れて来そうでどうしようもない気持ちになりました。安里さんの話は私の身内のおばさんにも重なってその辛さも少し解かる気がして“がん”がとても身近に感じることになりました。私自身、自分に自信を持つことが苦手でネガティブになり、思った事を表に出すことが出来ないことがあったり、自分のコンプレックスで気持ちが沈んでしまうこともあるけれど、それって自分にとってプラスになっているのか？輝く為の何かに結び付けられているのかな？と考えるととても良い機会になりました。私にとっての人生、生き方、教師になる前に必要な1人の人間として「私って何なの」かを考えることが出来ると思いました。

(匿名希望)

71、今回、目彰彦さん、田名勉さん、安里香代子さんの貴重な話を聞き、今自分が普通に声が出せる事、美味しくご飯が食べられることがとても幸せで有難い事だと思いました。また目さんも田名さんも自分の病をしっかり受け止め、前向きに話されてい

て、その姿を見てとても感動しました。2人に1人ががんにかかるリスクがある現在、もしかしたら自分が、自分の周りの人がかかってしまうかも知れない。そう思うと怖いけど、怖いと思うだけでなくそのことを受け止めて前向きに生きて行くことが大切だと思いました。 (石川 由美子)

72、私の祖母は子宮頸がんだったそうです。今は元気なので話を聞くまで分かりませんでした。がんもできる場所によって様々であることを知りました。そういう意味では私はがんの怖さを身近に感じていないのかも知れないと思いました。今日は目さんが3種類の方法で話していたので、いろいろな葛藤や努力が伺えました。全力で「生きること」「死ぬこと」に向き合われているのだと思いました。お話しして頂き有難うございました。

(匿名希望)

73、本講義を通して、生きる力とは何なのか？という問いが生まれました。学習指導要領で定義している「生きる力」とは違う「生きる力」がゲスト講師の中から感じられた。私はその「生きる力」をなんと呼べば良いのか分からないが、心の中に刺さり、湧き上がってくる心を持てると思いました。

(前原 洸大)

74、僕は今回初めてのがん患者さんお話を聞きました。とても辛い経験などもして
いて、想像もできないほど苦しまれたと思います。それでもこういう場に来て下さ
って、経験談もして下さい、本当に心が強いと思いました。がん患者さんの方々から学
ぶことはとてもたくさんありました。今を大事に生きています。 (大城 幹
也)

75、正直私の周りにはがんで何かを失った方、亡くなった人、実際に癌になった人は
一人もいません。その為、私にとってがんは未知の病気であり、テレビや本でしか知
ることのできないものという認識でした。目さんの声を最初聞いた時、どうして
「声」に何らかの思いや「声」を仕事にしている人に限って大切な声をうばわれてし
まうんだろう...と少し悔しいようななんとも言えない気持ちになってしまいました。
私も歌うことが大好きだし、小さいころからきれいな声だねと育てられ、私はこの声
が自慢です。だから歌えなくなる怖さ、しゃべれなくなる悲しさは分かる気がしま
す。もし自分がガンになった時、目さんのように勇気をもって生きることを選べるか
わからないけれど、今回の経験から学んだことを大切にしていきたいです。私も少林
寺を9年間やって聖句の部分は何度も先生から「大切」だと伝えられてきて、自分自
身も確かに大切な事だと思って生活して来たことだったので、そのお話が出てとても
嬉しかったです。これからも自分が生きて行く中で大切にしていこうとして心に留

めておきたいです。他にも田名さんの再発の話は胸の奥をぐっつつかまれて、自分のお父さんを思い出してしまいました。私は父ががんになったら自分はどんな言葉をかけて父を勇気づける事ができるのか考えました。しかし答えを出すことが出来ませんでした。だから田名さんの娘さんは本当にすごいと思ったし、自分も娘さんのように勇気を与えられる言葉かけのできる人になりたいと思いました。3つの坂のお話しは自分の父母もずっと言い聞かせてくれたお話しで、正直いつも「分かっているよ」と思いながら聞いていました。田名さんから発せられる言葉は1つ1つとても重くて「分かっている？自分は本当にわかっている？」と自問自答しながら聴いていました。もう1度この言葉の重みを理解して生きて行こうと思います。

残された側のお話しを、安里さんから今回聞けて本当に良かったです。私のお祖母ちゃんは2人ともパートナーを先に失って、何年も経った今でも「あの人がいたらこんなふうに言うのにね」と悲しそうにおしゃべりします。私はそんな顔を見るのがつらくて、わざとお祖父ちゃんを思い出させるようなお話しはしないようにしていました。しかし安里さんの息子さんが「いつまでもふさぎ込んでいちゃだめだ！」と伝えたと聞いて、私も逃げるんじゃなくて向き合い勇気を待たせる言葉を掛けないといけないんだと気づくことが出来ました。私のお祖母ちゃんは宮崎にいます。帰った時、お祖母ちゃんと話をするとき、話題に出さない方に逃げるのではなく、私もお祖母ちゃんに向き合う勇気を持ってもらえる言葉かけができる人間になりたいと思います。

今日は3人の方から、お話を聞いて本当に良かったです。今日が私の転換日になるよう成長していきたいです。有難うございました。(匿名希望)

月/日	※事業名 (1行にひとつの事業名を記入)	内容 (参加人数、議題、成果等)
年2回	沖縄県がん対策推進協議会	沖縄県(がん対策協議会 参加者13名 内患者家族関係者3名) 10/23, 11/20 2回
年4回	沖縄県がん地域連携協議会	琉球大学附属病院(県内のがん診療病院の連携協議会 参加人数50名 内患者家族関係者3名) 6月2日, 8月4日, 11月10日, 2月9日)
毎月	こども医療法人 わらびの会 運営会議	患者家族団体 参加団体18団体
毎月	ピアサポート (病院1階受付隣)	南部医療センター・こども医療センター(4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月)
6/4	交流会(琉球大学附属病院)	こども医療センター 参加者:小児看護師1名、医師1名、患児家族10名
6/27	院内交流会(こども医療センター)	こども医療センター 参加者:CLS1名, 小児看護師1名、医師1名、患児家族8名
7/4	医療講演会(こども医療センター)	こども医療センター 参加者:小児看護師2名、医師2名、患児家族20名、のぞみ財団本部1名
7/27	院内交流会(こども医療センター)	こども医療センター 参加者:CLS1名, 小児看護師1名、医師1名、患児家族8名
9/27	院内交流会(こども医療センター)	こども医療センター 参加者:CLS1名, 小児看護師1名、医師1名、患児家族9名
10/1	秋祭り(院内・外来交流会)(こども医療センター)	参加者:CLS2名, 小児看護師4名、医師2名、ボランティア10名、カラーセラピスト1名、アロマセラピー3名、鼓衆若太陽12名、患児家族16名
10/31	院内患児親子交流たこ焼きパーティー(こども医療センター)	参加者:CLS1名, 小児看護師2名、ボランティア1名、カラーセラピスト1名、患児家族13名
11/28	院内交流会(こども医療センター)	こども医療センター 参加者:CLS1名, 小児看護師1名、医師1名、患児家族9名
12/12	院内患児、兄弟、親子忘年交流会(こども医療センター)	参加者:CLS1名, 小児看護師2名、ボランティア2名、カラーセラピスト1名、患児家族15名
2/16	兄弟の交流会(こども医療センター)	こども医療センター 参加者:CLS2名, 小児看護師1名、医師1名、患児兄弟家族10名
3/25	10:00 交流会(こども医療センター)、 14:00 交流会(琉球大学附属病院)	参加者:(こども医療センター) 患児家族5名、(琉球大学附属病院) ボランティア1名、患児家族8名
/		
/		
/		

備考:

